



特別  
~13  
985



時 西 遠 13  
985  
巻

花街鑑自序

娼妓の誠ありと云。解知らぬ未至なる

口から僻説たはる。是誠を云ふとあざ

買ふ所の誤りあり。娼妓といえども

身よ誠ある道あり。善を明らうよ

せざるべ。身よ誠あらず。誠は笑の道あり

二月七日  
明  
印

之<sup>これ</sup>を誠<sup>まこと</sup>にま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>人の道<sup>ち</sup>あり。誠<sup>まこと</sup>に勉<sup>つと</sup>  
 め<sup>め</sup>中<sup>ちゆう</sup>。思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>中<sup>ちゆう</sup>。得<sup>う</sup>て<sup>て</sup>從<sup>じゆ</sup>容<sup>りゆう</sup>あり。中<sup>ちゆう</sup>  
 道<sup>ちゆう</sup>に中<sup>ちゆう</sup>の聖<sup>せい</sup>人<sup>じん</sup>あり。之<sup>これ</sup>を誠<sup>まこと</sup>にま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>  
 善<sup>ぜん</sup>を擇<sup>たく</sup>ん<sup>ん</sup>。固<sup>こ</sup>く<sup>く</sup>執<sup>しやく</sup>考<sup>かう</sup>也<sup>なり</sup>。下<sup>した</sup>  
 子<sup>こ</sup>思<sup>し</sup>先<sup>せん</sup>聖<sup>せい</sup>王<sup>わう</sup>も。容<sup>りゆう</sup>と媚<sup>び</sup>妓<sup>ぎ</sup>の胸<sup>ちゆう</sup>中<sup>ちゆう</sup>を  
 穿<sup>う</sup>く。偏<sup>へん</sup>あり。之<sup>これ</sup>を中<sup>ちゆう</sup>と謂<sup>い</sup>ふ。中<sup>ちゆう</sup>

三<sup>さん</sup>を。滑<sup>くわ</sup>熟<sup>じやく</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ。易<sup>えき</sup>に<sup>に</sup>ある。これ<sup>これ</sup>を  
 庸<sup>よう</sup>と謂<sup>い</sup>ふ。物<sup>もの</sup>の借<sup>か</sup>心<sup>しん</sup>の味<sup>あじ</sup>。其<sup>その</sup>味<sup>あじ</sup>の  
 窮<sup>きゆう</sup>も<sup>も</sup>。皆<sup>みな</sup>実<sup>じつ</sup>学<sup>がく</sup>あり。子<sup>こ</sup>思<sup>し</sup>官<sup>くわん</sup>に<sup>に</sup>あり。皆<sup>みな</sup>  
 善<sup>ぜん</sup>讀<sup>とく</sup>者<sup>しや</sup>。玩<sup>わん</sup>索<sup>さく</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ。得<sup>う</sup>て<sup>て</sup>ある。中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>あり。

壬午初爻 鼻山人誌



玉菊全傳同録

○第一章 芽かしの指分

○第二章 養のいろ

○第三章 籬の葉

○第四章 咲く枝

○第五章 花の葉

以上

玉菊全傳 花街鑑上之卷

鼻山人著

○第一章

吉原大全曰 昔角町中萬字屋玉菊といふ  
花街の辨別茶屋の。花のひききよられば。花のづららその名  
高尾薄雲おも。長く劣らざりしが。或時ふ意の  
記をあるを。人ぐあひききて。その年のあま月

追善ついでのなりとて仲あひの町まちの茶ちやを拵しらひくくのたき煙けむり  
箆へらを挑うげて玉たま菊きくが亡なきま霊たまをまりけしま万ま客かくのと  
殊ことらしとと群ぐんをあり振茶ちやるり疑あやしまこれよう  
年としくく善ぜんはし美み法ぽうくくて初はつ秋あきより仲あひの町まち  
花はな煙けむりをままり日ひありありたるト云いふ

煙けむり箆へら一ひとちき玉たま菊きくが来き敷し夜ようふ 其その角かく  
花はな上うへ墊せきのふりとあり咲紅葉もみぢハ浅あ草くさのたく山  
ありあ敷し夾さのありこの蒼そう天てんよ人の心こころのさき立ちも

去こ年ぞのままさのさるとあれどりのあれを知しるれ  
秋あきのゆめは傷ありと待まち草くさ大おほ成なりあもんくらりるる  
字あらは昔むかし故ゆゑありて悟ありうき世をあぶが岡おかの片辺へ  
小こ蓮れん見み登のぼ玉たま菫すみといふおおり女むすめがうをかをあと鳴くく  
まま娘むすめ最もちろありく住るる妻よめがありさぶらりの森もり業わざ  
ももあらばあ茶ちや店てんの兄世せをしりて宇う治ぢのままり  
よよ山やま吹かぜのせらありるるる茶ちや一ひとあり空のかきも行ゆくと  
わわらばさしてあトゆもあり年月つきを送るらちお



なが紡糸と。たぐむきく歎かふるふ。あはれさのあまう  
 可也や。内のゆおとやサア〜  
 中りませう。十子を扱さふんあも。嫁〜  
 扱方のあうあれど。モウ内へ返るの怒りや。ごまを扱を  
 さぬのふくはきしてゆてゆされ。妹はまがうて。扱は扱が  
 扱めへ親。サアあは立親〜。さあ結ぐえののどう屋  
 傷る妻の子はうぐう。遭扱さあまきと〜。扱親を  
 志ふんもあうさう。只管が。社とさう。扱〜。

ざるを不測あり。○や親もさぬの扱はけ下  
 され。子あううといとあはれ。扱のひたれ。可〜。えんあ  
 扱さぬの門へ連〜。ゆてのサアませうが。サアらあは  
 何といふおで。笑さぬの名も。知つてわんらの「アイ」  
 さんの名。夫婿父さんといひさぬ。内の扱のあるおで  
 ござうまふ。扱〜。哭〜。あ〜。知とあが  
 ござう扱〜。あ〜。ふあぐう。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。あ〜。  
 内のあはれんと。あ〜。扱子を〜。は〜。あ〜。あ〜。あ〜。



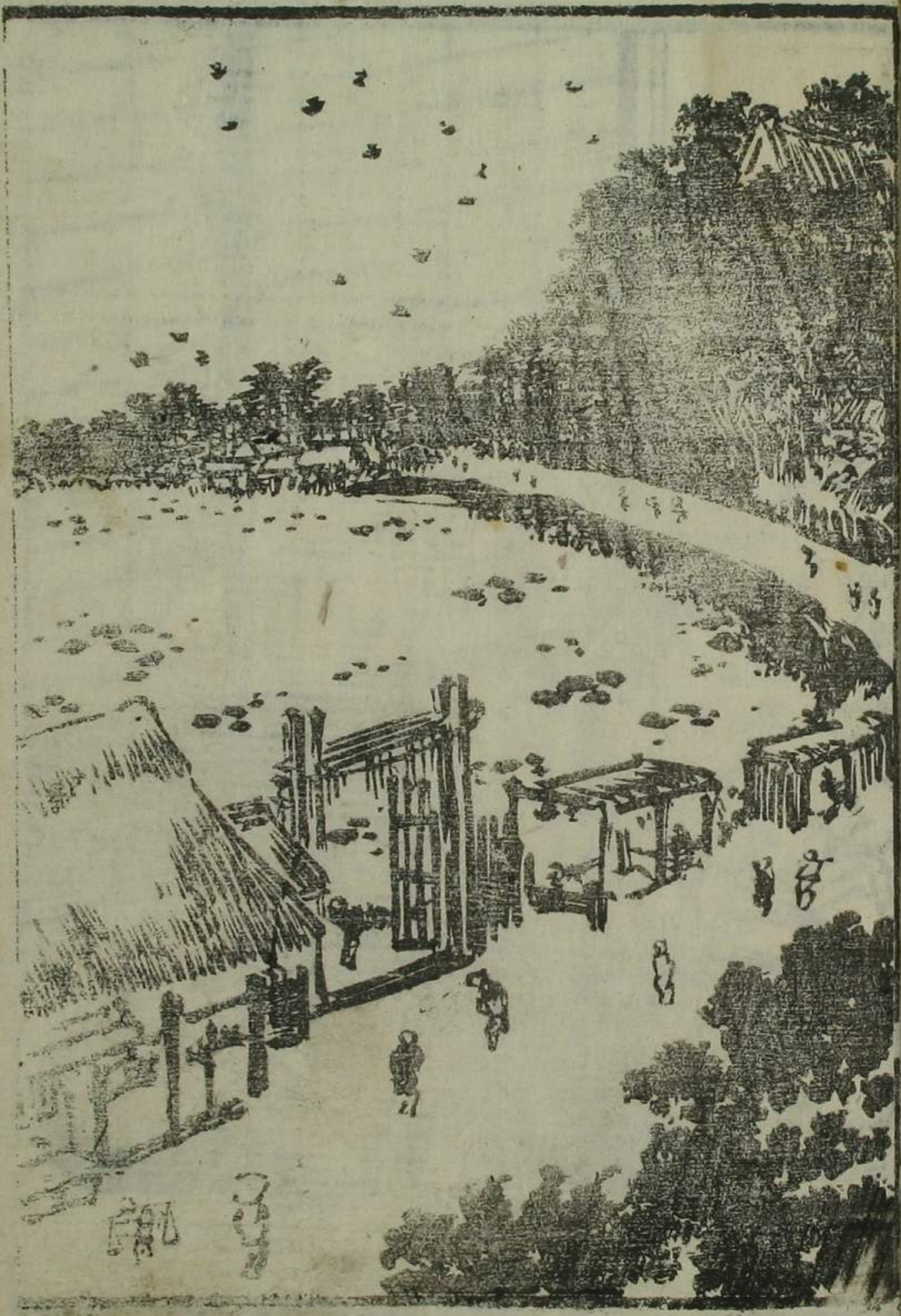
が岡へとちぬ里。玉産少の斯と昔く。結よ持あり放  
さ移バ。せひあく肉へけ。且昔まうとりよ。玉産も  
その容貌を足れば。形ハ木縁の半一たれども。夥印  
を辨じたる。とれた。扱さるふ子あく。何おとまぐ。嬉慈家  
梅担ハ。ふの業あり。ゆかん。と。電電まて。ゆめぐ  
菓子のとど。夜食あど。食するよ。扱はひふ。百年  
も。別染。肉。毒。じ。く。の。ま。あ。も。あ。く。と  
い。ら。の。ら。の。子。あ。や。あ。の。纏。の。は。は。く

飲。飲。さ。を。る。よ。あ。も。ら。び。づ。づ。も。あ。ら。ぬ。親  
学。の。持。け。あ。る。子。あ。る。と。尚。更。ふ。後。持。て  
音。子。あ。の。あ。ら。り。と。又。保。る。子。を。ま。ひ。子。あ。ま  
せ。あ。親。の。た。ら。む。や。悲。く。あ。ら。り。い。定。め。て  
今。い。ら。あ。ら。ま。を。尋。ね。と。び。く。わ。ら。せ。と。ん。よ  
風。と。ま。が。け。り。縛。の。事。は。ま。ま。子。れ。玉。産。ハ。是。を  
え。と。何。く。あ。ま。柳。楊。影。及。家。を。纏。在。り。名  
金。根。あ。娘。か。か。ち。ト。あ。ら。り。あ。ら。り。た。れ。ハ。あ。の。あ。の。あ。の。あ。の









教<sup>しん</sup>育<sup>く</sup>す。孝<sup>こう</sup>ひま<sup>ひま</sup>いひ<sup>いひ</sup>ひ<sup>ひ</sup>月<sup>つき</sup>。ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>子<sup>こ</sup>信<sup>の</sup>の<sup>の</sup>母<sup>の</sup>  
 う<sup>う</sup>の<sup>の</sup>母<sup>の</sup>活<sup>かつ</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>と<sup>と</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>。朝<sup>あさ</sup>出<sup>で</sup>く<sup>く</sup>夕<sup>ゆふ</sup>方<sup>かた</sup>庭<sup>にわ</sup>る<sup>る</sup>  
 身<sup>み</sup>よ。安<sup>あん</sup>堵<sup>と</sup>結<sup>むす</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>居<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>。お<sup>お</sup>か<sup>か</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>浅<sup>あさ</sup>茶<sup>ちや</sup>の<sup>の</sup>親<sup>おん</sup>ま<sup>ま</sup>  
 ま<sup>ま</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>は<sup>は</sup>ほ<sup>ほ</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>好<sup>この</sup>む。乃<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>で<sup>で</sup>迷<sup>まよ</sup>子<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>ん<sup>ん</sup>悒<sup>あき</sup>然<sup>れ</sup>  
 却<sup>さ</sup>く<sup>く</sup>途<sup>と</sup>方<sup>かた</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>道<sup>みち</sup>。あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>風<sup>ふう</sup>評<sup>へい</sup>を<sup>を</sup>。ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>  
 日<sup>ひ</sup>頃<sup>ころ</sup>お<sup>お</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>く<sup>く</sup>入<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>ち<sup>ち</sup>を<sup>を</sup>  
 後<sup>のち</sup>進<sup>すす</sup>出<sup>で</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>子<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>ん<sup>ん</sup>悒<sup>あき</sup>然<sup>れ</sup>。と<sup>と</sup>り  
 き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>。途<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>で<sup>で</sup>後<sup>のち</sup>う<sup>う</sup>殺<sup>ころ</sup>し<sup>し</sup>。川<sup>がは</sup>へ<sup>へ</sup>で<sup>で</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>あ</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>ん<sup>ん</sup>悒<sup>あき</sup>然<sup>れ</sup>。と<sup>と</sup>り

王 勤  
兼 見  
マ 刻  
は の 夕 ぬ





この世の心なき涙のむせび。夜ひとよ果てつ  
 ま〜。あつらひの面のかへはまは。夜の明るのをま  
 か〜。親のこゝろは。おぼろげな光り。あつらひ  
 この世へもまの安否。居つゝあつらひの影。あつ  
 ひさの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひ  
 の心なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき  
 涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつ  
 らひの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心  
 なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき涙。

母を  
 美娘が子よ。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき  
 涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつ  
 らひの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心  
 なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき涙。  
 あつらひの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひ  
 の心なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき  
 涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつ  
 らひの心なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心  
 なき涙。あつらひの心なき涙。あつらひの心なき涙。



南地<sup>なうち</sup>は、べんくと宿<sup>やど</sup>まの。くぐらうませる。あはれむ  
 と。は娘<sup>むすめ</sup>いっふ、おれは縁<sup>ゆかり</sup>の。あはれに、おれは、おれは、おれは、  
 さん、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 造化<sup>くわんざい</sup>を、あはれむ。おれは、おれは、おれは、おれは、  
 浪<sup>なみ</sup>は、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 立<sup>た</sup>ち、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 社<sup>やしろ</sup>を、あはれむ。おれは、おれは、おれは、おれは、  
 を、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 を、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、

甘<sup>あま</sup>り、踏<sup>ふみ</sup>金の。目<sup>め</sup>あも、と、宿<sup>やど</sup>入<sup>いり</sup>。おれは、おれは、  
 押<sup>おし</sup>え、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 悲<sup>かな</sup>しみ、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 美<sup>うつく</sup>し、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 玉<sup>たま</sup>子<sup>ご</sup>、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、  
 ひが、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、おれは、







兜 中ごとかりテ。兵今かりま〜。 [五] ヲウ何とらふ。外

歌 歌入。チット見させ入 [五] よんで扱付のせまなト。

ちん入 [五] ぽや あんぞ。契情買傳受の巻。コイ

つら。扱のしうら〜。 [五] ニまのあけ〜。初會から

あ〜。懐惚る。傳文あ〜。しうら〜。をまる。傳

文あ〜。今ををせ〜。扱の〜。扱ぶ。傳文

コイつら。扱の〜。扱なる〜。を扱中〜。 [五] 扱ひる。扱

さん扱入の [五] 扱が好ごら。今と〜。買て。扱中〜

たトあえん。會を〜。とふちあえん [五] 扱や〜。とれり面白

そ〜。扱入 [五] 扱せ入。来羊の算。ごら〜。今

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

扱入。扱せよ。扱あや。 [五] 扱入。扱せよ。扱せぬと〜

瀧さんよ。おききゅう。新板がうらやまし

田 田んぼの田んぼ。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。

おききゅう。おききゅう。おききゅう。おききゅう。









若旦那。先刻のそれがあつた。さうしてまた下紙  
の裏に「**園**」の義理の書ひるもの。つうの通り  
ある。押さぬさん。油でも。置ておいて。えんを。さ  
あつた。それ。婦人の。裁を。飲た。さる。男の。と。鳥。容  
粧。男。ハ。心。の。歎。ま。る。あ。は。徒。く。女。の。内。不。能。を。踏  
お。ま。の。女。子。の。う。ま。る。う。ハ。和。漢。の。例。ま。る。ま。か。り。だ  
と。い。え。ど。も。又。さ。ら。な。の。男。子。の。う。け。も。差。ま。る。く。さ。る  
よ。い。と。あ。つ。た。中。魔。山。は。石。と。あ。り。日。高。の。川。は

蛇へびとある。うがう。育ちと。そあつた。育ちあり  
宇治の橋はし。か。つ。た。蛇へびを。波なみは。ひ。く。も。か。茂しげの  
お。あ。ま。の。お。あ。ま。の。御。車ごぐるまの。争まじりひ。も。皆。悪わるま。る。う。ま  
あ。つ。た。お。あ。ま。の。お。あ。ま。の。仇かたきと。あ。つ。た。う。ま。の。供たまごも。紀きの。玉たまや  
遊あそび三さん希しの。目め。大。陣おほじん。の。義。理ぎぎ。よ。か。と。つ。け。と。道みち。え  
や。い。つ。う。お。あ。ま。の。お。あ。ま。の。合あは。え。と。針はり。を。い。つ。う。の。よ  
その。年とし。も。あ。つ。た。又。新あたら。ら。し。ま。の。中。旬ちゆうしゆん。季き。候こう  
送おく。風かぜ。を。送おく。く。邪よこしま。毒どく。人ひと。家いえ。を。集あつ。ま。る。癩かたがひ。病びょう

大まきよ。流形りゅうぎょう一いっ。門かど並なら枕まくらをあらへぶ。ある入いハ  
室むろ後ごつよ。後ごく。枕まくらをあらへぶ。會あひまひを端はな的てきのの多おほく  
室むろ達たつ炎えん象しょうの。後ごく。老おきなままなるなるべ。試し時とき  
滋し二に年ねんも。通とおうう。方かた便べんああくく。一いっ。華はなままちち。躬おの風かぜは  
身みを破やぶられ。例れいと。枕まくらは。依より。新あらたままるる。新あらた後ごのの身み  
ああららるる。地ちも。下した月つきあありり。女おんな親おやハ。たたらら  
一いっ。入い子こののりりあありり。仲ちゆう景けい。子こ。遊あそが。醫い。術じゆつ。成なり  
身み後ご。良よ家け。忠ちゆう仁にんのの業わざををととくく。療りやう法ぽうは。抑おさりり

ありり。丸まるれれ。ババ。老らうきき九きゆう死しをを免まぬぐぐ。一いっ。身みををほほくく  
ババ。日ひ々々。全ぜん。味あじはは。ままむむくく。とといいええ。もも。傷やぶらら。大だい海かいののああげげくく  
ああれれ。ババ。肥ひまま。のの。輝あき。紙かみをを。批ひ。まま。がが。ぶぶ。らら。まま。るる。まま。  
るる。漸ぜん々々。百ひゃく日にちあありりのの日にち教がうをを。受う。むむ。吾われ。新あらたののぶぶくく  
あありり。丸まるれれ。ババ。惜あはれれ。々々。息いきりりあありり。大だい師し。へへ。妻さい。坊ぼう。一いっ。足あしんん  
とといい。まま。ああ。親おやもも。病びやう。後ご。をを。どどめめ。ててののりりああれれ。ババ。却かへ。ららりり  
中ちゆうららんんもも。んん。まま。ひひあありり。妻さい。政せいあありり。とと。身み。代だいあありり。とと。連つれ。てて  
ゆゆべべ。一いっ。しし。りり。まま。るる。滋し。二に。年ねん。のの。ちち。あありり。かかのの。道みち。をを。免まぬ



車くるまを引ひつととり。賣うつととりヤスるやりりで。びびりびりりまたまたた。エ  
 りりはは夾さの瘕せ病びあり。大おぶぶ人にがえ換かへはしし。以え邊へ拓たくる  
 一い面めん門かど並ならその中なでをこころろ。一いむむろろん。瘕せ病び病びれれもも。又また  
 放はなされれ。今いまよよ。甚し考かでで扱ありりままるるトとままるる。滋しとと保ほる  
 袴はかまをを洗せん。一いテてその毒どくあるるをを洗せんされれと  
 のの。こころろちちああどども。漸すすくく。いいせせろろ把おきき。ななおおじじめめて  
 大お師しささままへへ。糸いと結むす。一い中な。トと。ななままるる。完かん。一いトと。ひひり  
 往やう來らいの人ひとどどろろもも。袴はかまま。ななおおままるる。いいぢぢいいちち。

それそれはは扱ありりささまま。扱ありりささまま。いいぢぢいいちち。一い。

ああくく。ああままのの音ね病びからら。業わざららいいままいいぢぢいいちち。

そのその。ああいいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。

るるああいいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。

るるのの。ああいいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。

てて。娘むすめ一人ひとりのの貧ひん乏ぱをを。電でん全ぜんをを。いいぢぢいいちち。

るる後ごなるなる。いいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。

一いぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。いいぢぢいいちち。

あつれまゝ一アヤヤ長松木の海への  
明を海にから慈懐と心で結したのし  
押さぬまゝんくれまゝも皆迎撃とありまゝ  
よろく昔水へ度り多き是より遊之布八六師く  
まの傍の海に口ふの谷中迎ふとありまゝ  
りをら押さぬがものまゝ水に舟のまゝま  
操をうて、おれもせひけひまとの星もまの秋も  
事と。とよ吹風の傍うまふまゝ日のもろく

うなれめある文月よ。この葉月も  
実よみ遊之布か竹子の友よ。孝と炊といふ者あり  
葉はまゝく有り徳ある者の粉といふあもあは。このあ  
て。又その日を遊さる町家の今布掛あもあは  
親のお意ある。家金袋もあつと。あまの水油の間  
屋あれども遊之布が身がんよ。くくくくくくくくくくく  
弱このある。そのまゝとあはれ多。初時時より徳蔵の  
秋を古やまのあはれが列してまゝのまゝはく。とよ何も



中か。ありやせうト  
繩の奇縁を。むきかしの。ひらひら。あつる。金。の。別。の。を。とり。や。く。さ。の。ひ。の。休。ま。る。お。あ。り。ト  
白氏が。と。を。後。う。ぞ。押。の。ひ。あ。り。多。数。

花街鑑上巻終

花街鑑下巻

鼻山人著

第三章

其君子非されば事も。そのな。非されば。な。と。せ。げ。伯夷を。未。至。る。扱。方。と。の。り。を。汗。君。を。も。羞。む。小。官。を。も。卑。と。せ。げ。抑。下。惠。を。雜。工。破。乱。辭。を。人。と。や。い。ん。割。床。の。隘。と。岡。場。野。の。恭。か。ら。る。與。君子。へ。由。む。と。孟。子。イ。ス。富。を。濫。之。希。ま。と。め。の。友。



人への好悪も亦も面々の確りあやまらる。今時之  
 羽織のせき子の蕪房小いん。裏に黒虎伯の毛抜  
 合せ違めく胴裏に白襦子あり。故逸先生の墨  
 画あつてもあつくと持りたる。いづれもあつち。尻を  
 浅田屋あつちで一寸と香りとあつち。ホロ碎持嬢の  
 完爾りの宛刻をケ純一どありあつち中。茶や  
 又張山口久。孝扱りの激人どら。巴屋のあつち子  
 宛久しづづよ去年俄のめ。あつちと一徳はつち。伝

だヨ幸さう久宛真もあやア折あ。美乳少どく  
 宛山口巴とまもやア。聖天大伝作サ宛さふ  
 中。幸神伝ふ。あつちまる男サそれどら。肉の繋  
 昌ま教。りりをとるせ入宛去年も如田の不動の  
 開帳子。御膳水を毎日。あつち。川中。あつち  
 中。子。幸。さう余程。幸。あつち。吐。あつち。あつち  
 神門を掲る。是より社。来の風。葉。毒。あつち。地。あつち。あつち

ころをほし。新内あらたにいらゝの浮草うきくさが。口くちに強つよのり  
 かしほれど。昔むかしも今いまも樽ふすまら移うつる暗くらき。五章ごしょうの  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね

せん。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね  
 女おんながうい。玉菊たまきくが女おんなをさびと申まをす。女おんな丁ちやうなる今いまも  
 女おんなの。大おほき。あ。い。し。い。な。れ。ば。こ。れ。を。暗くらき。女おんなね

下へぬ。中へ立ちて是より。南町萬壽屋の。  
構上より。若坐定まつて。振袖のあらざる。樂  
焼の茶碗へ。薄茶をたて。帛紗よのせき。[免]の  
ふりへ。坐も。又。能。友の。光。は。も。これ。ま。ぐ。の。小。冊。  
ゆ。り。と。云。む。借。玉。さ。く。の。遊。三。糸。の。事。り。し。と。ゆ。え  
あ。の。初。會。の。客。の。り。あり。は。悠。々。然。と。し。と  
の。事。れ。その。粧。ひ。貴。妃。を。歌。ま。李。女。人。を。壓。ま  
彼。天。上。の。采。花。也。休。は。郎。や。あ。る。事。と。後。の。法。々。

を。り。あ。り。と。の。女。の。お。も。と。と。り。の。玉。菊。遊。ぶ。が  
都。を。ん。と。ハ。ツ。ト。を。り。は。赤。面。あ。り。お。り。が。あ。り。は  
喜。び。と。胸。裏。を。ら。れ。と。も。只。和。じ。さ。ふ。高。熱  
あ。り。傳。へ。立。派。も。失。ひ。か。さ。る。が。よ。人。目。の。せ。れ  
あ。れ。は。涙。か。く。と。涙。く。玉。草。の。り。も。ま。さ。り。は  
あ。の。ま。さ。る。サ。ア。お。わ。ら。ん。の。お。り。は。ト。き。く。玉。菊  
の。あ。り。は。さ。る。客。あ。り。又。養。老。の。大。さ。り。ま。あ。り。と  
然。而。后。は。床。お。さ。ま。る。床。お。さ。ま。る。と。然。而。の。ち。は

後<sup>おのち</sup>茶<sup>ちや</sup>の女<sup>おんな</sup>も。さ<sup>さ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>。ま<sup>ま</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>お<sup>お</sup>ら  
 引<sup>ひ</sup>ち<sup>ち</sup>田<sup>でん</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup> 玉<sup>たま</sup>菊<sup>く</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>ち<sup>ち</sup>は<sup>は</sup>待<sup>まち</sup>ひ<sup>ひ</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>を<sup>を</sup>見<sup>み</sup>座<sup>ざ</sup>  
 愛<sup>あい</sup>か<sup>か</sup>し<sup>し</sup>う<sup>う</sup>は<sup>は</sup>く<sup>く</sup>遊<sup>あそ</sup>さん<sup>さん</sup>す<sup>す</sup>く<sup>く</sup>舞<sup>ま</sup>籠<sup>かご</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>。  
 さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>〜<sup>〜</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>ふ</sup>も<sup>も</sup>。舞<sup>ま</sup>籠<sup>かご</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 己<sup>おのれ</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 疲<sup>つか</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>も<sup>も</sup>。う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>ど<sup>ど</sup>後<sup>おのち</sup>牌<sup>はい</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 あり<sup>あ</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>で<sup>で</sup>合<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>。そ<sup>そ</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>由<sup>ゆ</sup>を<sup>を</sup>沙<sup>さ</sup>汰<sup>た</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 ろ<sup>ろ</sup>から<sup>ら</sup>。大<sup>おほ</sup>作<sup>さく</sup>さ<sup>さ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>の<sup>の</sup>房<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>。何<sup>なに</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>つ<sup>つ</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>

人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>が</sup>圍<sup>い</sup>圍<sup>い</sup>立<sup>た</sup>て<sup>て</sup>。清<sup>きよ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 子<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>如<sup>ごと</sup>新<sup>しん</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>。叔<sup>おじ</sup>父<sup>ふ</sup>さん<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 押<sup>おし</sup>〜<sup>〜</sup>を<sup>を</sup>親<sup>おや</sup>〜<sup>〜</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。ま<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>白<sup>しろ</sup>〜<sup>〜</sup>舞<sup>ま</sup>籠<sup>かご</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。叔<sup>おじ</sup>父<sup>ふ</sup>  
 さん<sup>さん</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 徳<sup>とく</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 タ<sup>た</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>  
 り<sup>り</sup>〜<sup>〜</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>し<sup>し</sup>













○第四章

痛しきをむじの袖よつらめども。今宵は身も余り  
ぬれぬま。僕も玉菊の。かひなく恋しと申しお。澁らうよ  
あひ深てよう。はぐの。勉も苦よあふ。は。き。み。の。あ。ま。き。せ  
ら。あ。と。さ。ら。う。あ。ま。ら。川。の。淵。深。も。あ。ど。り。か。ら。る。ご。だ  
ん。い。あ。ら。れ。とも。実。お。の。を。ど。め。よう。合。め。の。ま。り。れ  
ま。う。く。鄭。中。並。ぶ。の。の。あ。ま。き。も。偏。は。客。人。の。驕。威  
を。ぬ。り。の。あ。れ。が。お。よ。ふ。れ。て。い。ま。い。合。さ。り。お。の。ら。う

か。ぬ。種。夜。を。ま。く。明。し。と。ぬ。る。さ。の。その。た。く。ま。り。が  
愚。癡。と。あ。り。後。ま。ま。至。ま。さ。る。ま。ど。の。と。後。合。せ。の。時  
も。あ。り。ま。ん。ど。の。玉。菊。の。澁。と。希。は。換。ぐ。い。し。と。お。の。い  
客。あ。ら。れ。ば。お。の。け。う。ら。備。立。の。変。化。は。難。色。の。目  
は。し。を。利。く。陣。を。引。越。せ。あり。又。澁。と。希。が。な。り。よ  
横。巻。を。ま。と。ら。れ。ぬ。ま。は。後。利。を。ひ。き。く。て。彼。を。あ。ら  
大。將。も。あ。り。鄭。の。ご。く。し。て。教。ま。の。密。の。も。を。切。り  
あ。も。只。澁。と。希。が。ん。の。姫。難。を。ま。と。ら。ん。の。の。斗。ひ

ありたる。されども金銀の場ばく熾さかんあるもの。澁しほる  
が。勢いきほひ風かぜ 諸しよ事じやしく。金銀を餘あまのぶらふ捨すて鼎なべ 残のこ  
錯さくのぶらふ拙あやらうと。さうり惜あはむんある。夜よを日ひよ  
継つぐ。遊あそ宴えんの誘まね身み。又また他たを顧まもりぬが。玉たま菊きくハ  
大おほきよ金かね泥どろして一天いつてんの君きみだも。誘まねむる者ものハ  
かゞばいさへや尖とが刺さぶ。長なが生なま殿だんを移うつす。毒どく見み城じやうを  
花はなあぶ究きゆうめて元もと結むすの悔くわいある。歎なげくもあらんと只ただ  
管くだこれを煉あめて澁しほるが身みのくも。淫よこしまみあしん

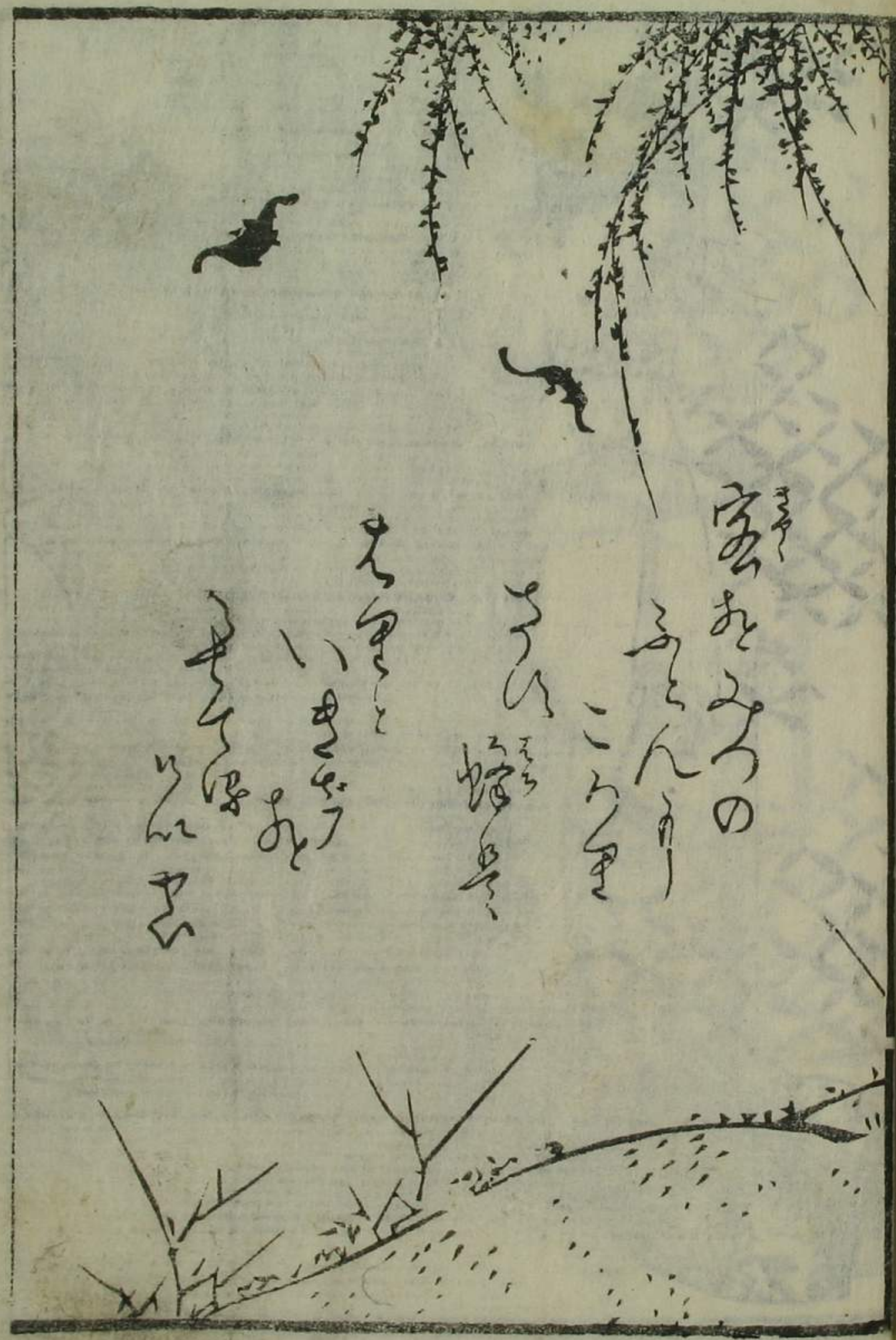
宛あつ賢けんくも形かたちひる。因より澁しほるも其その法はうらう。ひる  
めあり。余あまり減へ法はう界がいある金かねの巻まきはるやうあり  
ふる。是こゝ娼あしな妓ぎの性しやうを脱だつぐ。客きやくハ感かんを以もつて  
割わつ。言こと法はうの速すみが。苦くるうの地ぢのぶらる。夫おとこ実まことあり  
これを知しるは時ときあり。君きみの客きやくの身みを早はやも。境さかいより  
て。形かたち徳とくのあり。その徳とく拙あやらうをいふ。男おとこの身みでさへ  
由よし事じ難がたい。斯かく先まづ勉つとめその中なかで物もの目め節ふしも  
急いそぐ。茶ちや至いた事じ宿しゆくのほけ屋やけ。幸あひひ免めんは仕し業ぎやう絶ぜつ

ちで表<sup>あらわ</sup>し<sup>め</sup>る<sup>ま</sup>ね<sup>ら</sup>れ<sup>る</sup>名<sup>な</sup>で<sup>よ</sup>え<sup>る</sup>其<sup>その</sup>方<sup>かた</sup>の<sup>く</sup>面<sup>めん</sup>が<sup>い</sup>く<sup>ら</sup>  
新<sup>あらた</sup>内<sup>うち</sup>娘<sup>むすめ</sup>の<sup>こ</sup>心<sup>こころ</sup>は<sup>い</sup>志<sup>し</sup>せ<sup>る</sup>。其<sup>その</sup>る<sup>は</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>希<sup>まれ</sup>に<sup>い</sup>指<sup>さ</sup>指<sup>さ</sup>  
身<sup>み</sup>代<sup>しろ</sup>の<sup>ま</sup>金<sup>かね</sup>糸<sup>いと</sup>株<sup>くわ</sup>あ<sup>れ</sup>ば<sup>は</sup>百<sup>ひゃく</sup>あ<sup>や</sup>。百<sup>ひゃく</sup>あ<sup>の</sup>金<sup>かね</sup>糸<sup>いと</sup>の<sup>ま</sup>  
久<sup>ひさ</sup>風<sup>かぜ</sup>前<sup>まへ</sup>の<sup>ま</sup>若<sup>わか</sup>菜<sup>な</sup>の<sup>ま</sup>ど<sup>ろ</sup>よ<sup>う</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>玉<sup>たま</sup>菊<sup>きく</sup>が<sup>ま</sup>真<sup>まこと</sup>実<sup>まこと</sup>を<sup>ま</sup>  
引<sup>ひ</sup>き<sup>ま</sup>す<sup>ま</sup>時<sup>とき</sup>あ<sup>ら</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>こころ</sup>の<sup>ま</sup>偽<sup>いつはり</sup>惑<sup>ごまか</sup>を<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>と  
別<sup>わか</sup>際<sup>さい</sup>守<sup>まも</sup>り<sup>た</sup>る<sup>ま</sup>客<sup>きやく</sup>の<sup>ま</sup>か<sup>ま</sup>し<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>め<sup>め</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>  
世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>あ<sup>ら</sup>む<sup>ま</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。  
世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>名<sup>な</sup>を<sup>ま</sup>延<sup>えん</sup>寿<sup>じゆ</sup>と<sup>よ</sup>稱<sup>よ</sup>ぶ<sup>ま</sup>。頗<sup>た</sup>る<sup>ま</sup>大<sup>おほ</sup>金<sup>かね</sup>の<sup>ま</sup>ち<sup>の</sup>

大<sup>おほ</sup>盡<sup>じん</sup>客<sup>きやく</sup>あ<sup>ら</sup>。と<sup>れ</sup>い<sup>の</sup>玉<sup>たま</sup>き<sup>く</sup>。實<sup>まこと</sup>出<sup>い</sup>の<sup>ま</sup>む<sup>ら</sup>し<sup>く</sup>  
内<sup>うち</sup>徳<sup>とく</sup>あ<sup>ら</sup>。月<sup>つき</sup>の<sup>ま</sup>客<sup>きやく</sup>あ<sup>ら</sup>。指<sup>さ</sup>指<sup>さ</sup>世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>活<sup>かつ</sup>あ<sup>ら</sup>。ま<sup>ま</sup>  
が<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>ま</sup>世<sup>よ</sup>を<sup>ま</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>ま</sup>今<sup>いま</sup>又<sup>また</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>も<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>。あ<sup>ら</sup>が<sup>ま</sup>  
身<sup>み</sup>の<sup>ま</sup>久<sup>ひさ</sup>の<sup>ま</sup>為<sup>ため</sup>も<sup>ま</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>  
一<sup>ひと</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>ま</sup>玉<sup>たま</sup>菊<sup>きく</sup>も<sup>ま</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。よ<sup>う</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>ま</sup>。  
世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>名<sup>な</sup>を<sup>ま</sup>延<sup>えん</sup>寿<sup>じゆ</sup>と<sup>よ</sup>稱<sup>よ</sup>ぶ<sup>ま</sup>。頗<sup>た</sup>る<sup>ま</sup>大<sup>おほ</sup>金<sup>かね</sup>の<sup>ま</sup>ち<sup>の</sup>  
玉<sup>たま</sup>き<sup>く</sup>が<sup>ま</sup>身<sup>み</sup>の<sup>ま</sup>久<sup>ひさ</sup>の<sup>ま</sup>為<sup>ため</sup>も<sup>ま</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>。世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>  
世<sup>よ</sup>の<sup>ま</sup>流<sup>なが</sup>る<sup>る</sup>名<sup>な</sup>を<sup>ま</sup>延<sup>えん</sup>寿<sup>じゆ</sup>と<sup>よ</sup>稱<sup>よ</sup>ぶ<sup>ま</sup>。頗<sup>た</sup>る<sup>ま</sup>大<sup>おほ</sup>金<sup>かね</sup>の<sup>ま</sup>ち<sup>の</sup>

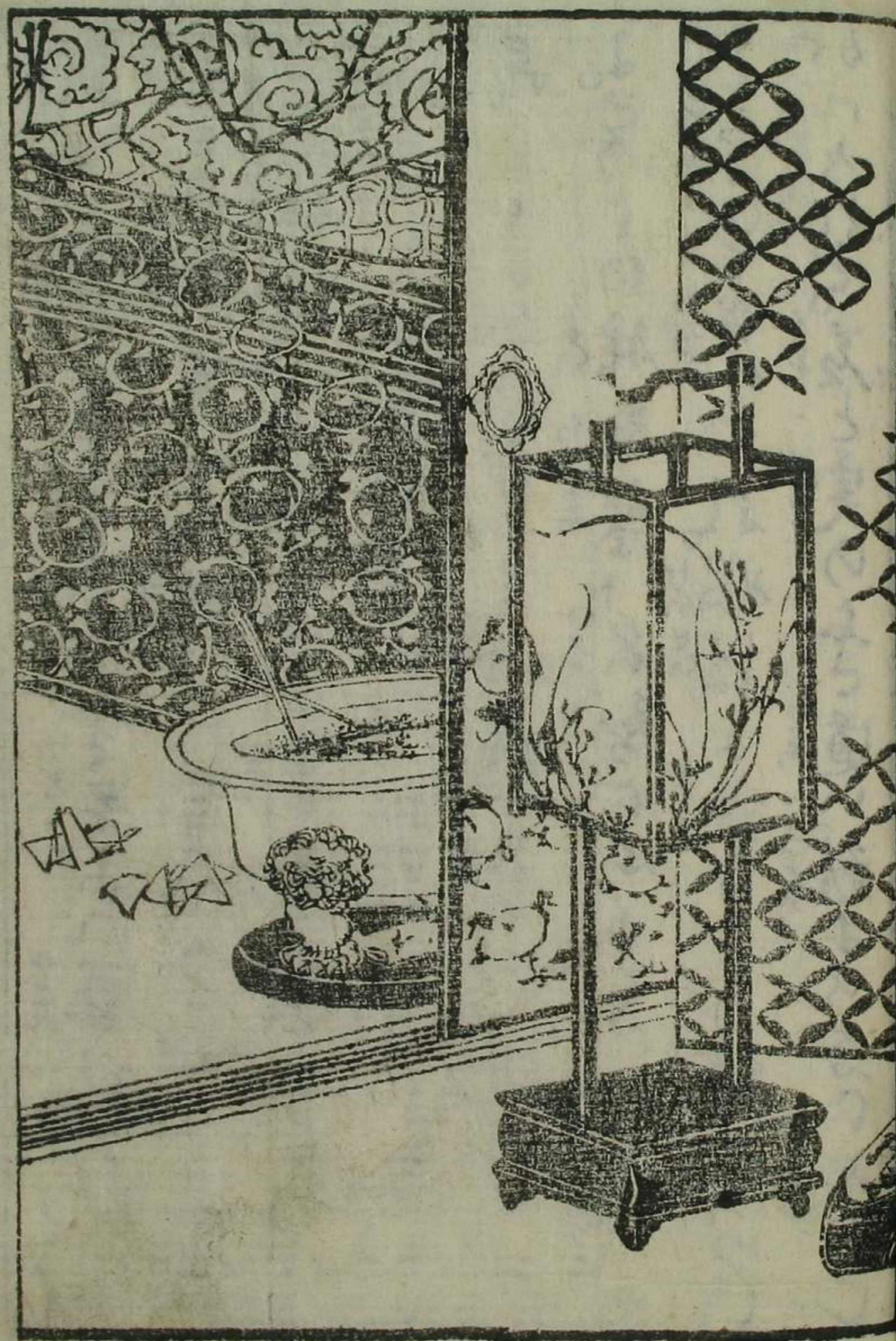
我ありおは実の情はあづくるさへもあはれまじり  
自惚きつと通ひる。又玉きつり着く。安延壽が  
るを。滋之希は少明とつりんとおひひか。妻あり  
偽惑はきき實は。は然ゆらもまづらびあはし  
あるふとらひらして。却てこひ切まよあはる内後  
の。いふもよきか。びとあは。滋之希が二人身の迫  
り。あつらひあれてあれば。只その物入のあなるらん  
るのそ。一國は地ひをうて。供はほく秘し隠し

邂逅は。さし合ふおもあるゆへ。初會の客とつり給  
らしておきさるる人。滋之希も延壽が。は。別座  
お新客ともあは。び。延壽も玉き。不。滋之希とのあ  
まある。さし。尚。又。ふ。身。は。そ。い。供。あ  
ま。ま。又。絶。の。は。や。名。を。あ。い。か。給。滋。之。希。が。鄰。邊  
の。ま。ま。の。の。あ。い。ある。あ。ひ。と。一。人。子。の。可。あ。さ。ま。あ。知  
ぬ。あ。し。と。さ。し。量。が。場。く。お。お。ひ。ま。実。が。入。て。内。一  
お。あ。る。疾。の。稀。あ。る。よ。お。と。の。二。日。醉。為。は。惟。憐。面



あはれみの  
あんなり  
こころ  
さうい  
かたき  
いせ  
あはれ  
あはれ  
あはれ





影を。又母の苦言はよむ。金巻の願後ど。刻  
我思ふ。物言ふと。けひのせよいと。あえ  
も。安堵後だ。つらみのうはまきよ。如らもあふ  
後。おと。女がうよ持せむ。おのづと内は  
居る。おとありませう。唯。鶏をよと。雄  
ま。どろくの能。智慧。名。智。右。の。も。その昔。歎  
と。ら。して。受。え。あ。れ。娘。は。依。る。一。願。わ。り  
が。た。れ。ど。も。と。実。の。や。道。ハ。勉。ま。る。の。骨。は

て。金巻のせう。子。管。あり。実。ら。い。を。も。は。き。あ。ら  
身。の。う。を。契。容。あ。と。憑。む。ん。の。決。あ。れ。ば。遠。れ。真。女  
の。鑑。と。あ。る。その。心。底。を。も。撰。ら。む。一。身。後。あ。ら  
その。お。の。よ。の。縁。で。せ。ひ。あ。く。お。の。ね。は。流。ふ。は。さ。さ  
居。り。居。り。ま。い。金。を。出。した。さ。う。入。ふ。縁。と。あ。ら。ば。親  
ま。が。和。を。世。り。く。さ。く。ま。面。目。あ。さ。や。ま。を。せ。き。と。い  
て。う。ら。お。も。あ。ら。ば。子。あ。が。二。子。あ。で。も。身。後。一。と。ま。ね  
ふ。あ。さ。ん。と。お。と。あ。く。お。の。な。お。く。身。が。ほ。く。も。二。世。之。よ



江戸の子の親交。年ハ身てもあつては。ゆき  
あつて足は多。駟て名知右の。傳代ある通ひ。妻  
既の。隆き糸といふ老をひそく。振き。粉漉。三糸が  
く。死身を女をも。寿玉の。姫。玉きくが。底。伏  
を。弓。もふ。ある。又。老を。り。駟。き。呼。ぶ。る。是。を  
ひそく。振。り。あ。つ。た。その。せ。い。か。く。の。次。身。身。後  
の。り。を。く。ん。く。一。これ。を。ひ。出。ま。す。あ。つ。た。は。は。は。  
より。か。よ。は。し。甚。は。う。り。つ。て。夢。慧。を。い。つ。ら。ひ。是。よ

たの。つ。る。も。これ。着。かり。し。は。可。宍。の。靴。と。あ。り。馬。無。を。と。り  
せ。仲。る。あ。つ。た。な。楽。が。女。あ。つ。た。とい。え。る。は。昔。郭。の  
義。者。あ。り。し。を。い。ろ。ろ。の。あ。つ。た。連。事。と。い。え。る。は。昔。郭。の  
き。と。あ。つ。た。さ。う。の。通。ひ。あ。つ。た。を。勉。め。る。今。の。年。次。の  
爺。か。ね。の。大。ま。掃。の。ま。ま。の。あ。つ。た。ま。の。中。の。中。の  
子。あ。つ。た。一。を。持。帰。す。四。舞。さ。れ。て。折。り。今。の。洗  
ひ。の。あ。つ。た。を。名。知。右。の。あ。つ。た。の。あ。つ。た。あ。つ。た。が  
これ。幸。ひ。あ。つ。た。は。い。と。な。は。飲。び。駟。こ。の。計。ひ。る。

望き由れをみて。さても幸感あるり。母入  
ども。さるが不慮を蒙りし。主人の婿とも。籍がごとく  
最ん心を死するあり。老幼の智短心を出し。むう  
と。料坂をりつ。その老う実を探らん。とな  
らうのちよあり。と。得んほしてぞぬるる。

○第五章

話説紀の由屋の書。及び望き。玉菊が胸中を

探らんなり。美寿屋の内へ。雛妓買の直風を  
滑稽。目ざり。玉菊が新造の玉笠を。真や  
定り。その外へ。花を新造。揚て。二階で  
小獨之。青の酒壺。同白。折村の春の物。は  
春を。と。ぬる。媚顔を。笑ふ。さ。の。定。屋。の。う。り。の  
物。ふ。ん。し。て。ん。管。も。は。粧。容。も。あ。り。る。土。用。の  
口。ふ。ん。涼。く。かん。の。雛。子。ふ。ん。く。春。ま。は。惚。了。  
花。の。ま。の。の。笑。ひ。教。は。笑。お。葉。の。密。の。猪。ま。の。り。



陸 （陸） 五の井さん（五）のイ第（イ）が二をえり。致（致）く  
 して。其の意（意）わどらり移入ト押（押）ひのたひ（たひ）ごまよ（ごまよ）でも  
 又て。厭（厭）鬼（鬼）ちやア季（季）のど（ど）ご（ご）  
（あど）からうひあうほをのむら  
たののりもあらうと斤（斤）計（計）てあぢひ  
 是（是）より種（種）ぐさ（ぐさ）ぬぐ（ぬぐ）ある。客（客）のう（う）めさ（めさ）あ（あ）ぞ（ぞ）床（床）押（押）き  
（あ）ま（ま）お（お）り（り）と（と）も（も）し（し）は（は）ま（ま）の（の）今（今）宵（宵）玉（玉）菊（菊）が（が）ぎ（ぎ）り（り）此（此）の（の）客（客）れ  
（あ）ま（ま）お（お）り（り）と（と）も（も）し（し）は（は）ま（ま）の（の）延（延）壽（壽） 滋（滋）三（三）帝（帝）が（が）ろ（ろ）を（を）汚（汚）く（く）季（季）が（が）ろ（ろ）ぐ（ぐ）ご（ご）う（う）ろ（ろ）の  
 うちよ（うちよ）その男（男）ひあり（ひあり）れ（れ）が（が）色（色）外（外）よ（よ）恥（恥）り（り）ま（ま）と（と）。は（は）ひ（ひ）よ（よ）  
（う）ろ（ろ）し（し）浮（浮）ぬ（ぬ）糸（糸） （延） 娼（娼）妓（妓）は（は）泳（泳）あ（あ）り（り）と（と）。あ（あ）ら（ら）よ（よ）く（く）入（入）の（の）い（い）よ（よ）

男（男）ご（ご）う（う）ま（ま）さ（さ）の（の）限（限）ッ（ッ）ち（ち）や（や）。よ（よ）ら（ら）ま（ま）の（の）ほ（ほ）く（く）入（入）と  
 候（候）の（の）移（移）入（入）の（の）う（う）が（が）そ（そ）ひ（ひ）る（る）日（日）を（を）押（押）ひ（ひ）申（申）。あ（あ）ん  
（ま）ま（ま）り（り）。推（推）号（号）ま（ま）ま（ま）だ（だ）と（と）。胸（胸）か（か）よ（よ）も（も）を（を）敷（敷）き（き）か（か）り（り）な  
（り）同（同）の（の）遭（遭）ひ（ひ）。今（今）と（と）あ（あ）つ（つ）て（て）末（末）練（練）ら（ら）り（り）。ど（ど）や（や）か（か）ら（ら）い（い）の（の）も  
 ち（ち）ん（ん）ぐ（ぐ）の（の）恥（恥）を（を）並（並）ぶ（ぶ）と（と）。介（介）は（は）み（み）を（を）か（か）く（く）わ（わ）ら（ら）な（な）。い（い）ん（ん）ご（ご）れ  
（ご）ま（ま）の（の）移（移）入（入）け（け）や（や）ア（ア）。季（季）の（の）計（計）り（り）入（入）り（り）だ（だ）ん（ん）あ（あ）り（り）の（の）義（義）務（務）を（を）  
（ご）ま（ま）の（の）切（切）り（り）は（は）ま（ま）ら（ら）。定（定）め（め）ら（ら）し（し）内（内）後（後）の（の）味（味）が（が）味（味）と（と）。そ（そ）う（う）あ（あ）り（り）  
（ご）ま（ま）の（の）味（味）が（が）味（味）と（と）。そ（そ）う（う）あ（あ）り（り）。二（二）と（と）

やつび。家の内しも面中一の出来後入次巻を  
 び。をりつ。お。敷されこのぐはかの深わう。さ  
 んヤきう。今夜限を。まらぬの由を言ひし。ゆり。激  
 を。大る。あ。と。未。長。く。ひ。さ。る。中。の。は。ま。る。が。り  
 男が美ツく。金があれば。意をなして。客をぬく。計  
 初。難。別。謀。の。う。り。の。髪。と。や。ア。空。と。の。無。理。を  
 押。の。縁。へ。エ。ト。あ。れ。て。ま。き。ん。と。ま。ら。れ。一。と。玉。と。ん。ま。思。ひ。の  
 附。イ。せ。え。り。を。ま。は。い。あ。ら。ら。お。ま。あ。ん。あ。ん。こ。う。と。や。や。ア

ね一の情態と。いふ。んで。推し。よ。も。寄。出。の。を。い。あ  
 うら。身。の。う。の。も。も。ぐ。も。ら。あ。明。く。推。の。入。り。に  
 志。は。な。さ。ん。ま。の。の。を。申。へ。一。と。あ。う。あ。め。推。の。せ。ぞ  
 好。る。も。ね。を。使。う。は。な。し。て。推。の。の。の。を  
 そんな。歎。く。の。を。ト。ま。い。し。る。ま。い。推。を。れ。ト。案  
 が。な。く。さ。る。ト。な。し。入。正。志。の。の。を。り。つ。て。も。は。る。を。な  
 だと。推。の。う。ら。と。も。あ。る。ら。は。空。と。の。後。入。玉。あ。る  
 ち。ど。激。え。の。の。の。も。が。難。い。あ。ん。ま。の。全。理。と。も。あ。も









るあつ。その故に滋つらら。茶ちやを考あやへ。或時あるときの  
 ともは。利久りくが攘竹じやうちくの茶ちや故ゆゑ。古田こんでん徹てつ躬こうが中ちゆう茶ちやの  
 の蓋ふた玉たま宗むね端はたが宛まをらの付つ。湯ゆ煮ぬの茶ちや碗わん以もて  
 あり。拂はらひの形かたちよ。さうとましめて。茶ちや食くの  
 事ことをまがらふや。只ひた管くだ好よしを中ちゆうあれば。玉たま菊きく早はや  
 進すすこれをさうよせ。滋つらら。かか。照あらう。その代しろ令しやう  
 百ひゃく中ちゆう安あん。今いまよはも付つたれば。玉たまきんがんのうち。あち  
 りびらるわら。今いまも。延えん壽じゆうが。この金かねを。持もちまかりし

ちまも。やう物もののりもをられ。清せい後ごの令しやうもひひの  
 まは。は。り。清せいいんの。ま入い搦なあ。び。又または。も  
 あり。と。玉たまこれも。やんの。美み理りの。ま。よん。あ。く。終しゆう  
 い。に。が。も。ら。は。ま。ら。あ。ま。あ。ら。け。  
 あまのひも。延えんそれを。清せいいんの。あ。も。ひ。ひ。び。んの。終しゆう玉たまを  
 びん。け。て。ま。ひ。ま。ト。の。の。ち。り。風かぜの。中ちゆう吹つの。る  
 ち。の。ま。ま。が。碎さい例れいま。る。新しんよ。を。後ごの。か。身みを  
 あり。あ。の。の。容よう子こを。ま。よ。ま。る。が。難なん岐ぎの。た。ら

ざん。その次の方よ。腰より下れて。差後たるも。  
まき。後の様子。のから。まよ。よ。列。ま。の。は。ら。ん。  
まき。の。後。上。種。う。浅。草。り。お。や。こ。り。  
積。り。なる。形。本。の。顔。き。令。丸。の。懼。あ。き。こと。を。海。や。美。抜。  
人の。括。き。ん。と。を。患。高。の。林。の。娘。は。通。る。春。は。遊。ん。  
中。路。の。海。ら。ま。ん。が。笑。え。ん。を。び。び。て。玉。ぎ。ろ。が。身。の。く。く。よ。  
世。意。が。う。う。契。情。は。決。あ。ま。ん。今。う。は。始。ぬ。マ。マ。あ。あ。ら。  
渠。が。胸。中。郵。ま。の。あ。ま。あ。ま。ま。ま。の。一。の。面。目。

あ。さ。ト。ハ。志。が。ば。と。十。分。は。汁。ら。れ。く。も。口。惜。や。と。  
勢。の。猛。は。走。ら。を。鈴。戸。は。響。の。た。ま。ご。も。来。縁。来。  
砂。も。伸。の。所。茶。や。も。あ。ま。む。その。ほ。で。遊。ぶ。角。町。で。  
あ。う。う。る。玉。葛。が。さ。さ。し。た。あ。の。新。造。玉。亮。玉。亮。あ。う。  
さ。さ。む。ひ。て。梳。髮。を。ま。と。み。る。あ。く。遊。ら。く。ま。の。ト。遊。  
の。引。つ。き。そ。の。美。の。者。も。と。と。ま。り。あ。く。さ。の。一。の。玉。き。  
玉。き。ん。が。う。い。り。ち。や。ア。整。と。お。う。け。お。あ。い。ぬ。が。あ。い。  
も。泥。あ。い。よ。ま。これ。と。さ。あ。く。娼。妓。ら。ん。あ。う。ま。あ。ん。



遠くへいざいざ ト次のまへ 玉 あまをり なること ト云ひ分て

いふことなすともせんせ トあまをりむせびていひたれ 玉 あまをり なること ト云ひ分て

のさくさくさく トあまをりむせびていひたれ 玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

心の中を あまをり 知る あまをり 玉 あまをり なること ト云ひ分て

根 あまをり なること ト云ひ分て

これ あまをり なること ト云ひ分て

骨折 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

名残 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

玉 あまをり なること ト云ひ分て

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 lines, starting from the top right and moving downwards. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 12 lines, starting from the top right and moving downwards. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a single column on the right page of the manuscript.

九月廿九日 後 抄 録 〓  
Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a single column on the left page of the manuscript.

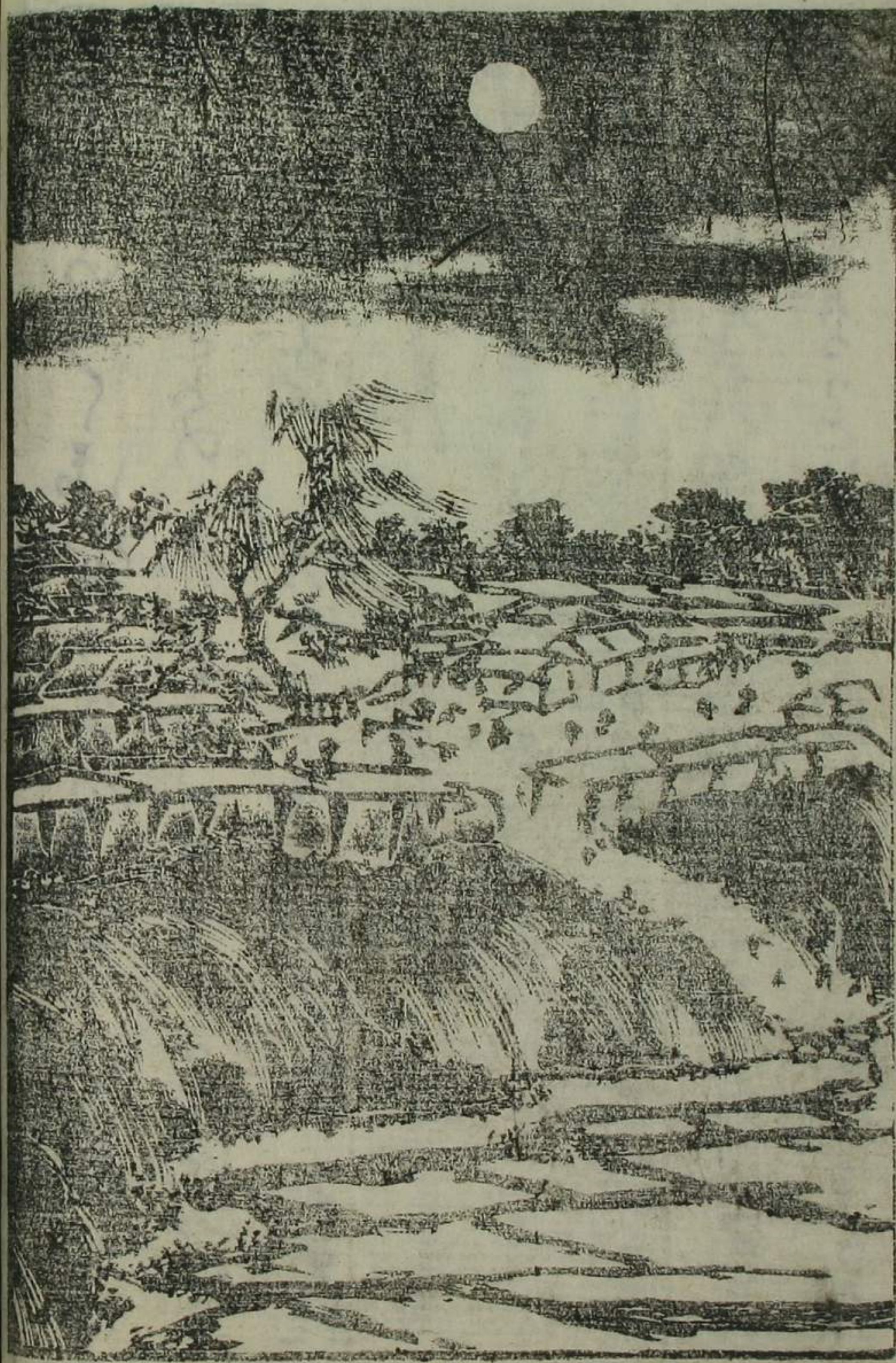
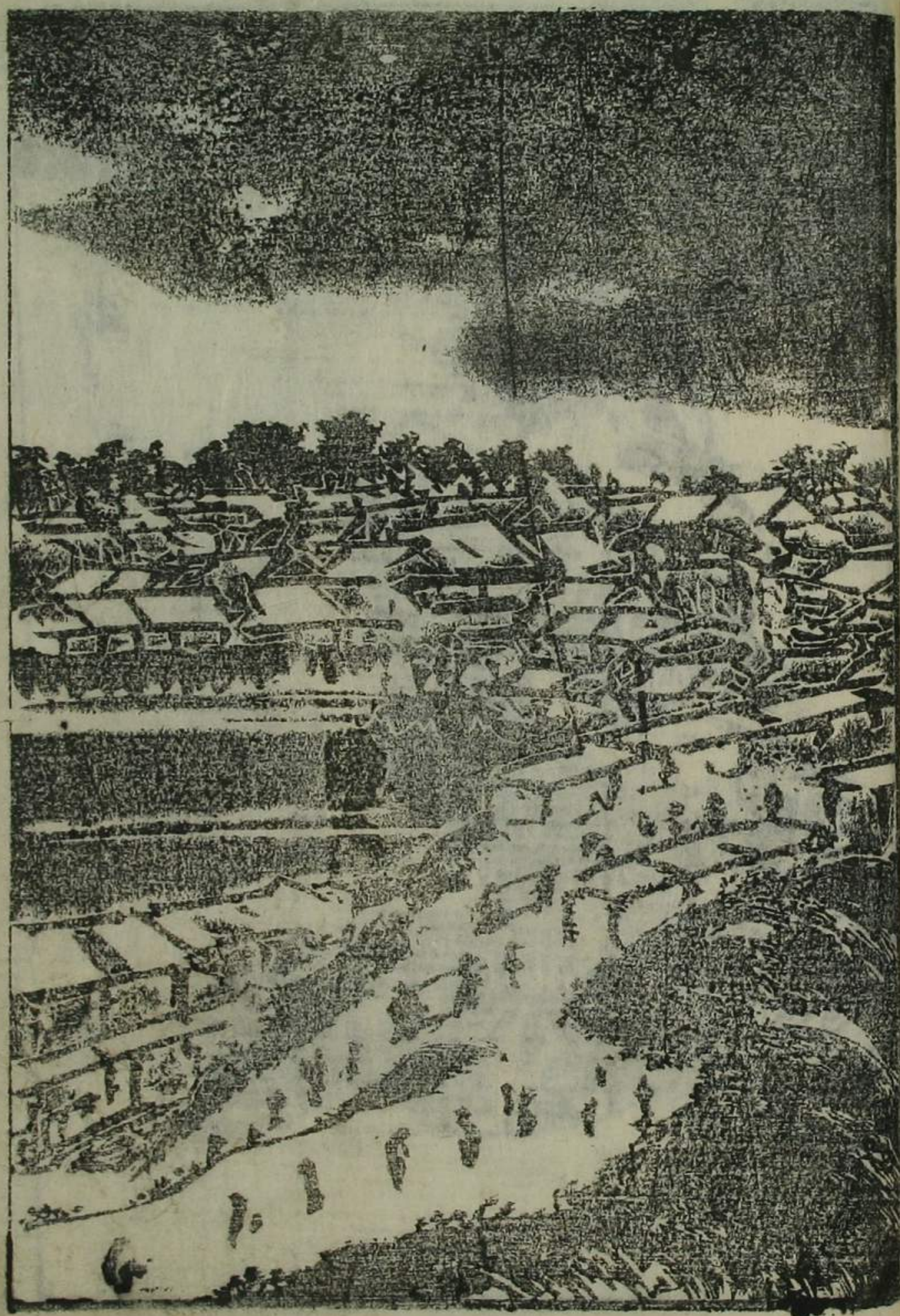
Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 10 lines, starting from the top right and moving downwards. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands.

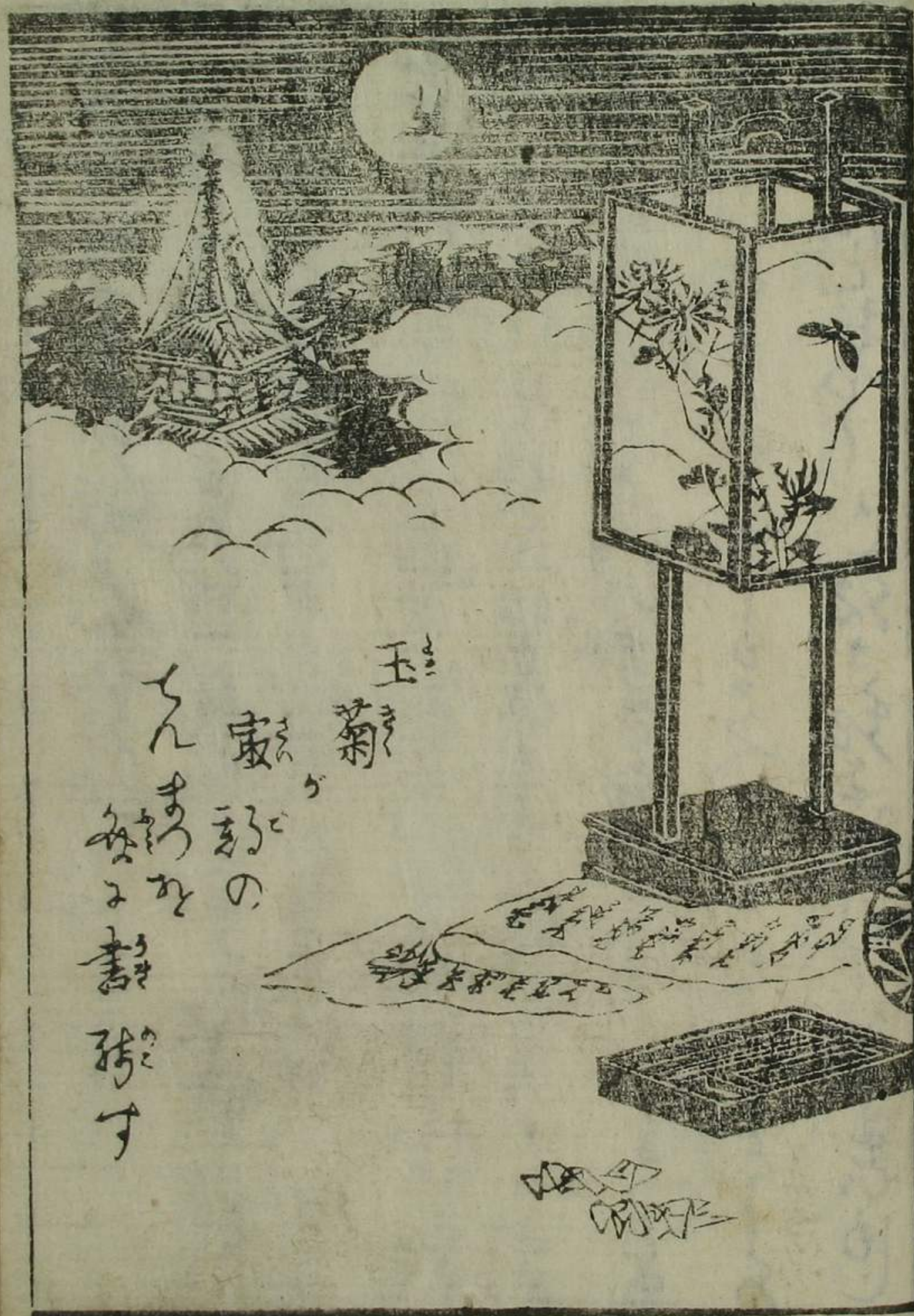
Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 10 lines, starting from the top right and moving downwards. The script is dense and characteristic of Gothic or similar medieval hands.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 10 lines, starting with a large initial letter 'S'.

Handwritten text in a cursive script, likely a medieval manuscript. The text is arranged in approximately 10 lines, starting with a large initial letter 'D'.







玉  
 菊  
 庭  
 の  
 静  
 け  
 す



女  
 の  
 静  
 け  
 す

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, located in the upper right section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, located in the middle right section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, located in the lower right section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or a series of entries, located in the lower left section of the page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a list or account, with several lines of text. The text is written in a dark ink on aged paper. The lines are roughly horizontal but follow the curve of the page. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged paper. The lines are roughly horizontal but follow the curve of the page. The script is dense and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in two columns on each page, separated by a vertical line. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. The pages are aged and show some staining.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in two columns on each page, separated by a vertical line. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. The pages are aged and show some staining.



Handwritten musical notation on the right page, consisting of a single staff with a treble clef and various rhythmic markings.

Handwritten musical notation on the left page, consisting of a single staff with a treble clef and various rhythmic markings.

五<sup>き</sup>菊<sup>く</sup>との夜<sup>よ</sup>の<sup>よ</sup>。 <sup>う</sup> <sup>ら</sup> <sup>こ</sup> <sup>と</sup> <sup>を</sup> <sup>白</sup> <sup>小</sup> <sup>社</sup>

脊<sup>せき</sup>伸<sup>のび</sup>は。六<sup>ろく</sup>字<sup>じ</sup>の名<sup>な</sup>号<sup>ごう</sup>を。大<sup>だい</sup>文<sup>ぶん</sup>字<sup>じ</sup>は。虫<sup>むし</sup>多<sup>た</sup>。白<sup>しろ</sup>  
縷<sup>いと</sup>子<sup>こ</sup>の。帯<sup>おび</sup>。金<sup>かね</sup>糸<sup>いと</sup>で。小<sup>せう</sup>室<sup>むろ</sup>きく。の。纏<sup>ねい</sup>。お。新<sup>あらた</sup>。も。さ。う  
む。ま。ぶ。も。水<sup>みづ</sup>も。ゆ。し。て。二<sup>に</sup>十<sup>じゅう</sup>一<sup>いち</sup>。新<sup>あらた</sup>。の。着<sup>き</sup>え。月<sup>つき</sup>。を。う。あ。く  
曼<sup>まん</sup>と。散<sup>ちり</sup>花<sup>はな</sup>。お。熱<sup>あつ</sup>。む。ほ。しく。舞<sup>ま</sup>。も。つ。今<sup>いま</sup>。の。旅<sup>たび</sup>。事<sup>こと</sup>  
の。粧<sup>まけ</sup>。ひ。も。あ。き。く。體<sup>てい</sup>。を。う。や。折<sup>お</sup>。ら。し。実<sup>じつ</sup>。は。也<sup>なり</sup>。あ。は。れ  
の。ん。か。の。く。は。衰<sup>おとろ</sup>。先<sup>まづ</sup>。う。あ。の。の。ん。已<sup>い</sup>。ま。き。ん。ぬ。の。さ。き  
世<sup>よ</sup>。の。あ。ら。う。ハ。ハ。ハ。ハ。の。玉<sup>たま</sup>。章<sup>あきら</sup>。が。秋<sup>あき</sup>。ま。小<sup>こ</sup>。嫌<sup>きら</sup>。が。悲<sup>かな</sup>  
愁<sup>あは</sup>れ。と。り。の。も。あ。ら。う。同<sup>おな</sup>。も。あ。と。ら。れ。ぬ。光<sup>あかり</sup>。景<sup>かげ</sup>。ハ。作<sup>つく</sup>。者<sup>もの</sup>

も。昔<sup>むかし</sup>。よ。お。あ。び。ご。う。新<sup>あらた</sup>。と。玉<sup>たま</sup>。菊<sup>きく</sup>。が。室<sup>むろ</sup>。新<sup>あらた</sup>。の。結<sup>むす</sup>。糸<sup>いと</sup>  
廓<sup>くわく</sup>。中<sup>ちゆう</sup>。の。の。も。又<sup>また</sup>。さ。う。の。真<sup>まこと</sup>。操<sup>まを</sup>。を。ひ。ま。は。し。く。入<sup>いれ</sup>。て。被<sup>おほ</sup>。を  
後<sup>あと</sup>。ら。ぬ。い。あ。ら。う。さ。る。さ。れ。が。繼<sup>ついで</sup>。ら。う。も。後<sup>あと</sup>。悔<sup>くわい</sup>。の。あ。ん。ど  
狗<sup>いぬ</sup>。を。割<sup>わ</sup>。愁<sup>あは</sup>。嘆<sup>なげ</sup>。の。押<sup>おし</sup>。の。い。穠<sup>さか</sup>。を。ひ。紀<sup>き</sup>。念<sup>ねん</sup>。と。を。今<sup>いま</sup>。の  
仇<sup>あひ</sup>。あ。れ。こ。れ。あ。く。ふ。た。た。あ。う。隙<sup>ひま</sup>。も。あ。ら。あ。く。て。送<sup>おく</sup>。葬<sup>さう</sup>  
の。嘗<sup>こころ</sup>。と。追<sup>お</sup>。後<sup>ご</sup>。の。作<sup>つく</sup>。善<sup>ぜん</sup>。せ。あ。て。の。の。長<sup>なが</sup>。火<sup>ひ</sup>。と。今<sup>いま</sup>。の。ん。も  
博<sup>ひろ</sup>。ま。の。の。いと。佳<sup>よ</sup>。美<sup>み</sup>。子<sup>こ</sup>。さ。う。行<sup>い</sup>。ひ。さ。る。保<sup>たも</sup>。あ。て。ひ。と。の  
も。い。ぬ。名<sup>な</sup>。智<sup>ち</sup>。を。あ。ら。ま。ぬ。も。同<sup>おな</sup>。の。る。世<sup>よ</sup>。を。去<sup>さ</sup>。り。繼<sup>ついで</sup>。ら



うきをうきおはする。紀の玉や文右のときも名もなき  
新松田やの玉もなき。玉もなき。玉もなき。玉もなき  
おのづかの心もなき。つらき遊ばし。つらき遊ばし。つらき遊ばし  
まのめい。まのめい。昔とあり。昔とあり。昔とあり。昔とあり  
秋のつらや。の秋のつらや。の秋のつらや。の秋のつらや  
盆とおのづか。盆とおのづか。盆とおのづか。盆とおのづか  
あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと  
あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと  
あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと。あきと

金銀をたたくて。花をたたくて。花をたたくて。花をたたくて  
別道なる。別道なる。別道なる。別道なる。別道なる。別道なる  
と果し。と果し。と果し。と果し。と果し。と果し。と果し。と果し  
されど。されど。されど。されど。されど。されど。されど。されど  
涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯。涯  
あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし。あし  
を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し。を絶し  
のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう。のいあう

向の詩の善悪を結ぶ一向念仏の好者とい  
 て。よく到るる。菩提を吊ひるる。されば玉蘭の  
 一端の恥を忍びる。非業の死をあるといえ  
 ども。又紀文が。偽る進言の信者を受て。名  
 を素代の今よか。せせらる。偏は花街の鑑とも  
 謂のらる。

花街鑑 下巻 大尾



場太真遺傳 精製桐の箱入  
 處女香 一廻り

とも、花街鑑の素世間小多、白粉洗松花、水の中、油菜を、  
 して、まじりて、由、安、菜、ご、ら、に、細、小、色、を、白、く、  
 丸、く、し、た、の、茶、世、間、小、多、く、白、粉、洗、松、花、水、中、の、油、菜、を、  
 皆、分、も、油、花、を、極、く、け、し、油、花、水、と、油、菜、と、も、ク、  
 向、上、へ、さ、さ、る、ん、が、こ、し、は、あ、ら、う、た、粉、小、菜、菜、も、も、  
 用、い、ま、す、て、も、忽、し、小、切、花、の、不、ま、る、世、菜、さ、り、一、  
 一、下、月、い、ち、し、と、西、京、の、

色自然と標のどくあり一擧り用ひるる如く物亦荒産の粗目も  
 極二重漆のこと死に漆うとするのなるは。由れば。七はる。後  
 の状。名所の物。一も漆を海で。うり。うり。と。漆。合。し。物。記。す。能。く  
 洗ひ。す。る。者。多。く。あ。る。は。自然と。付。す。漆。を。取。り。去。る。事。只  
 自然と。漆。の。向。く。う。る。に。漆。を。取。り。去。る。事。只  
 用ひ。す。る。由。目。に。漆。は。七。是。く。る。製。法。由。名。証。ひ。り。い。の。用。ひ。す。る。物  
 真の美人とありりへへ  
 為永春水精刺

色  
 妙業 初みどつ里

書物并繪入讀本所

江戸京橋張左門町東側中経  
 文永堂 大嶋屋傳右衛門

